

瀬野川病院 (KONUMA記念 依存ところの研究所)

加賀谷 有行 所長

広島市安芸区中野東 4-11-13
TEL 082-892-1055

【スタッフ】津久江亮太郎(院長)・医師 20人・正看護師 171人・准看護師 55人・
精神保健福祉士 44人・作業療法士 22人・薬剤師 5人ほか



かがや・ありゆき

1987年広島大学医学部卒。国立精神・神経医療研究センターで学び、大学院生時に瀬野川病院非常勤医師として勤務。広島大学医学部助手・講師、広島国際大学教授を経て、2016年より現職。精神保健指定医。精神科専門医・指導医・産業医。

実績・成績

平均入院日数：アルコール・薬物依存症／約2か月、統合失調症・躁うつ病／約3か月
入院患者のうち、約27%を依存症患者が占める。(以上、2018年)

治療

三大依存症の早期自覚・改善に専門治療プログラムで高実績

社会問題としても大きく注目されるアルコール・薬物・ギャンブル依存症は、患者本人の嗜好だけでなく、それに至った精神の不安や生活環境、経済的な破たんなど、複合的に関わる場合も少なくない。女性患者の増加や低年齢化も顕著となり、豊富な経験と実績を持つ病院の存在は不可欠といえる。

同院は、県内で唯一の依存症治療拠点機関、県・市指定の精神科救急医療センターに認定。24時間365日体制で、幅広い精神障がい者の急性期入院治療や退院後のケア・看護に対応。地域の中核施設に求められる役割を担い、治療と再発防止に取り組んでいる。

特に、入退院を繰り返すことも多い依存症や統合失調症には、医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士・臨床心理士・薬剤師などの多職種が連携し、院内のチーム医療による専門治療プログラムを実施している。認知行動療法(SMARPP / 依存症を理解しながら依存を脱する動機付けを実施)を取り入れ、同じ悩みを持つ患者同士の交流や家族のケアを含めたプログラムを実践し、在宅ケア(再発防止を見据えた)につながる通院・入院治療で実績を上げている。

アルコール依存症の治療では、必須とされた断酒の指導も現在では少しずつ変化してきており、患者本人の症状や意識に応じて、断酒の前段階としての減酒や、本人の達成度を評価する認知行動療法も効果が認められおり、同院でも採用している。こうした、最新の認知行動療法に薬物療法を組み合わせ、「行き場を失う前に早期通院・治療できる環境を」という治療方針を掲げ、専門病院にふさわしい高い評価と厚い信頼を得ている。

グループ診療所として開設(2003年)された「よこがわ駅前クリニック」では、アクセスの良さもあいまってギャンブル依存症や思春期の発達障がい等の相談が多く、グループ独自の特色ある医療に強みを持つ。「KONUMA記念依存ところの研究所」(瀬野川病院内)における依存症の治療・予防に関する啓発・研究や、アルコール健康障害サポート医を養成して地域の早期治療を促す活動を行うなど、『いつでも、どこでも、だれでも』の姿勢で、患者の心と身体を支えていく病院をめざしている。

加賀谷所長からのアドバイス

アルコール・薬物・ギャンブル依存症は、早期治療・再発防止が重要です。患者さん本人のセルフケアはもちろん、家族の気づきや相談・サポートが、早いうちの相談・診療につながります。

外来診療日

月～金曜(午前・午後)、土曜(午前) ※家族相談も有
加賀谷所長は紹介状と予約が必要(初診時)